

吉田 治代

医療法人社団紘和会 平和台病院 検査室室長

私が勤務する病院は透析施設を有する糖尿病専門病院です。ベット数 80 床（一般病棟 50 床、療養病棟 30 床）糖尿病外来患者数は月平均およそ 2500 人、約 100 名の透析患者の 8 割以上を糖尿病患者が占めています。検査技師は 8 名が在籍し全員で毎月開催される糖尿病教室・透析予防教室・生活習慣病教室などの集団指導に携わっています。

当院はスタッフ教育にも大変力を入れており、‘患者さんが誰に質問しても糖尿病の基本的なことはお答えできる’ようにと全職員を対象にした「糖尿病勉強会」を毎月開催しています。看護部が主催する「事例検討会」では外部講師を迎え、看護師とともに管理栄養士・検査技師・看護補助者など職種の垣根なく事例を通して患者の視点にたった看護について学んでいます。このような学習の場を通して当院の検査技師は患者さんと向き合う姿勢を自然と身につけてきました。

そこで今回は当院の糖尿病チーム医療における臨床検査技師の取り組みについて 2 つのテーマに分けて紹介します。

(1) 検査を通して患者とつながる

～透析患者の血管検査から見えてきた検査技師の役割～

平成 16 年に透析施設が開設された当初から私たちは透析患者さんの血管検査に力を入れて参りました。下肢血管検査は下肢 US と SPP (skin perfusion pressure) を定期的 to 実施してきましたが、私たちはこの検査からある‘気づき’を得ました。神経障害のため下肢虚血が明らかでも症状がないため積極的な治療が行われない患者さんたちの存在です。この方たちは一旦足に傷ができると一気に重症化し生命予後をも脅かされます。この患者さんたちの足と命を守るためにも、自分で自分の足を守るセルフフットケアの必要性に気づき、透析室スタッフと情報交換を行いながら検査時に足のお手入れや履物について患者さんと話ができる体制を整えることができました。

た。この‘気づき’は私たちの検査の視点だけでなく患者さんとの関係性にも大きな変化をもたらしました。

(2) 体の中で起こっていることを伝える

～糖尿病教室・透析予防教室における検査技師の役割～

検査技師の仕事は「体の中の情報をおもてに取り出す」ことです。そこで私たちは「体の中で起こっていることを患者さんにお伝えする」ことを各種集団指導における検査技師の役割と位置づけました。患者が自分の体の中をイメージできることは治療や療養指導の意味を理解し療養生活を継続する上で非常に大切なことです。糖尿病教室では「HbA1c が下がる」メカニズムを赤血球の糖化と血球回転の視点で紹介し、体の中で起こっていることと血糖コントロールの関連性をお話ししています。

透析予防教室では 検査結果と自分の腎臓の状態が分かるように①正常の腎臓の状態・②低下した自分の腎臓の状態・③腎症の危険因子の 3 点について毎回個人用配布資料を作成し、講義を行っています。

このように体の中のできごとをお伝えすることは、検査の経験年数や糖尿病の知識の差に関係なく一人前の検査技師なら誰にでもできますので、当院では新人 2 年目の技師も含めて検査室全員が講義を行っています。

日本臨床検査技師会による検査説明・相談ができる臨床検査技師の育成が始まりました。私どもも‘もっと患者さんのおそばへ’と考え、日頃から検査を通して患者さんの生活をみつめ、体の中で起こっていることを想像し、検査とつなげて説明できるように検査室の仲間達と日々スキルアップに励んでいます。

【連絡先】 TEL : 0985-24-2605

e-mail : seiri@heiwadai.or.jp